

2026年4月10日

「〈ひろぎん〉SX ネクストローン」の実行について 【パラカ株式会社】

株式会社広島銀行（頭取 清宗 一男）では、「〈ひろぎん〉SX ネクストローン」を実行しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 案件概要（「〈ひろぎん〉SX ネクストローン」の概要は【別紙 1】をご参照ください）

融資実行日	2026年4月10日
融資形式	証書貸付
融資金額	6千万円
融資期間	3年
目標	CO ₂ 吸収量
その他	ひろぎんエリアデザイン株式会社から〈ひろぎん〉SX ネクストローンにかかる評価書【別紙 2】を取得しております。

2. 企業概要

会社名	パラカ株式会社
所在地	東京都港区愛宕 2-5-1 愛宕グリーンヒルズ MORI タワー9階
代表者	代表取締役 執行役員会長 内藤 亨 代表取締役 執行役員社長 内藤 宗
業種	不動産業
事業内容等	駐車場の運営および管理業務

以上



広島銀行では、SDGsへの取組みを強化しております。

【SDGs（Sustainable Development Goals）持続可能な開発目標】
2015年9月に国連で採択された、経済・社会・環境のあり方についての2030年までの世界共通目標。持続可能な開発のための17の目標と169のターゲットで構成。

本件に関するお問い合わせ先

株式会社広島銀行
営業企画部 法人企画室
TEL (082) 247-5151（代表）

「(ひろぎん)SX ネクストローン」について

○特長

- ・地元企業のサステナビリティ向上に寄り添い、地域のサステナビリティ向上に資する取組みについて、資金面からご支援します。
- ・お客さまと地域のサステナビリティ向上につながる目標を設定していただき、目標達成の場合に金利引き下げを実施します。
- ・対外 PR 支援として、融資実行時に当行よりニュースリリースを行い、サステナビリティへの取組みの対外公表をご支援します。

○商品概要

対象となる方	以下のすべてを満たす法人のお客さま ・自社と地域のサステナビリティ向上に資する目標を設定※ ・年 1 回のレポートの実施（お客さまから銀行への報告） ※設定目標には、ひろぎんエリアデザインによる評価を実施
お使いみち	運転資金・設備資金
ご融資金額	当行所定の金額
ご融資期間	2 年以上（固定金利は 10 年以内）
ご融資利率	当行所定の金利（目標達成の場合、金利引下げを実施）
ご融資形式	証書貸付・当座貸越
ご返済方法	当行所定の審査によります
担保・保証人	
取扱手数料	組成難易度に応じてスキーム構築手数料が必要となります

- ・SX とは、Sustainability Transformation の略で、企業がサステナビリティ（持続可能性）を重視した経営方針に転換することです。
- ・本商品は環境省等が定めるガイドラインに適合する SLL（サステナビリティ・リンク・ローン）ではございません。

〈ひろぎん〉SXネクストローンにかかる評価書【別紙2】

パラカ株式会社 〈ひろぎん〉SXネクストローン

発行日：2026年4月10日

発行者：ひろぎんエリアデザイン株式会社

本文書は、株式会社広島銀行(以下、「貸付人」という)とパラカ株式会社(以下、「借入人」という)の間の〈ひろぎん〉SXネクストローン(以下、「本ローン」)について、貸付人が、持続可能な地域社会の実現に貢献することを目的とし、地域特性や業種特性を踏まえて独自に設定した評価基準に基づき、借入人のサステナビリティに対する取り組みを評価したものであり、以下にその評価結果を報告する。

1. 借入人とサステナビリティ

(1) 会社概要

借入人は、東京都港区に本社を置き、時間貸駐車場を中心とした駐車場の開発・運営・管理を主力事業とする企業である。東京証券取引所プライム市場に上場しており、駐車場事業を通じて都市部の交通環境の改善や遊休地の有効活用に貢献している。

企業理念に「永遠のあと百年」を掲げ、駐車場事業を基盤とした持続的な成長を志向している。事業エリアの拡大や駐車場ネットワークの拡充を推進するとともに、再生可能エネルギー事業などの分野にも取り組み、社会インフラとしての駐車場の価値向上と都市の利便性向上に貢献している。



企業名	パラカ株式会社
代表者	代表取締役 執行役員会長 内藤 亨 代表取締役 執行役員社長 内藤 宗
本社所在地	東京都港区愛宕2-5-1 愛宕グリーンヒルズMORIタワー9階
設立	1997年8月
資本金	19億6,200万円
事業内容	<ul style="list-style-type: none">・駐車場の運営および管理業務・駐車場の運営、管理に関するコンサルティング・資産運用と資金調達に関するコンサルティング・太陽光・風力・地熱等再生可能エネルギーの供給に関する事業・その他関連業務

(資料) 借入人ウェブサイトより作成



(2) 事業内容

借入人は、時間貸駐車場事業を中心に、駐車場開発、駐車場運営、土地活用の領域で事業を展開している。遊休地や低未利用地を活用した駐車場の開発・運営を行うとともに、土地所有者に対して駐車場としての活用を提案し、未利用地の有効活用と地域の駐車需要への対応を図っている。

【借入人の事業領域】

区分	概要	特徴など
駐車場開発 	<ul style="list-style-type: none"> クルマ社会にとって必要不可欠な交通インフラである駐車場を、企画・マーケティングから設計、開発まで一貫した体制で開発する事業 地域ごとの需要や人の流れを踏まえたマーケット調査を行い、立地特性に応じた最適な駐車場を供給することで、街の交通インフラの整備に貢献している 	<ul style="list-style-type: none"> 自社で土地を取得して運営する「保有駐車場」と、土地オーナーから土地を借りて運営する「賃借駐車場」の2つの方式を展開 マーケティングに基づいた設計・開発を一気通貫で行うことで、地域ごとに最適な駐車場の提供を可能としている
駐車場運営 	<ul style="list-style-type: none"> 開発した駐車場について、料金設定、設備管理、清掃、トラブル対応などを行い、安心・安全に利用できる運営体制を構築する事業 駐車場専門として培ってきた経験とノウハウを活かし、利用者の利便性向上と地域の交通機能の維持に貢献している 	<ul style="list-style-type: none"> 市場環境の変化を継続的にモニタリングし、料金設定などを柔軟に調整することで土地のポテンシャルを最大限に引き出す運営を実施 自社メンテナンス体制により機器トラブルへの迅速な対応を行い、安定した駐車場運営を実現している
土地活用 	<ul style="list-style-type: none"> 駐車場事業で培ったノウハウや全国ネットワークを活かし、遊休地や未利用地の有効活用を提案する事業 駐車場整備や不動産開発への参画を通じて土地の価値向上を図り、地域の街づくりや経済活性化に貢献している 	<ul style="list-style-type: none"> 不動産デベロッパーや仲介会社との連携、官民連携によるまちづくりへの参画などを通じて、再開発案件や施設付帯駐車場などの大型案件にも対応 これにより、駐車場事業にとどまらず、地域の都市機能向上や土地価値の創出に寄与している

(資料) 借入人ウェブサイトより作成



(3) サステナビリティ

借入人は、企業理念である「永遠のあと百年」をサステナビリティポリシーとして掲げ、「企業の目的」そのものを「持続可能性の向上」と定義している。また、下図のENSGFは共同体の階層を表しており、企業は自らの持続可能性を高めることは勿論、他の階層のそれをも高めるべく、森林保全、地域社会への貢献、およびサステナビリティ研修などの取り組みを推進している。



(資料) 借入人ウェブサイト

■ 主な取り組み① パラカの森

借入人は、広島県に600ヘクタールを超える山林を保有している。日本における山林の所有は、小規模・分散的で、極めて小さい面積の山林を個々が所有している状況であり、輸入木材の普及により国産の木材価格が下落し続ける中、小規模・分散的な所有だと採算が合わず、適切な管理・伐採などをせず放置されているような事態が多く発生している。

借入人は、所有者が異なる山林を集約化することで上記のような問題を改善し、地元林業への貢献、自然災害防止、CO₂吸収量の拡大など、山林の公益的機能の維持増進を行っている。

【パラカの森（広島県）】



(資料) 借入人ウェブサイト



■主な取り組み② サステナビリティ研修

従業員を対象としたサステナビリティ研修を実施し、環境問題や森林保全などに関する理解を深める機会を提供している。研修では、企業活動と環境課題との関係、森林保全活動の意義、地域社会との関わりなどを学ぶことで、社員一人ひとりがサステナビリティを意識した行動を取れるよう人材育成を進めている。

【研修での取り組み（一部抜粋）】

植樹

薪づくり

アダプト活動（広島県認可）



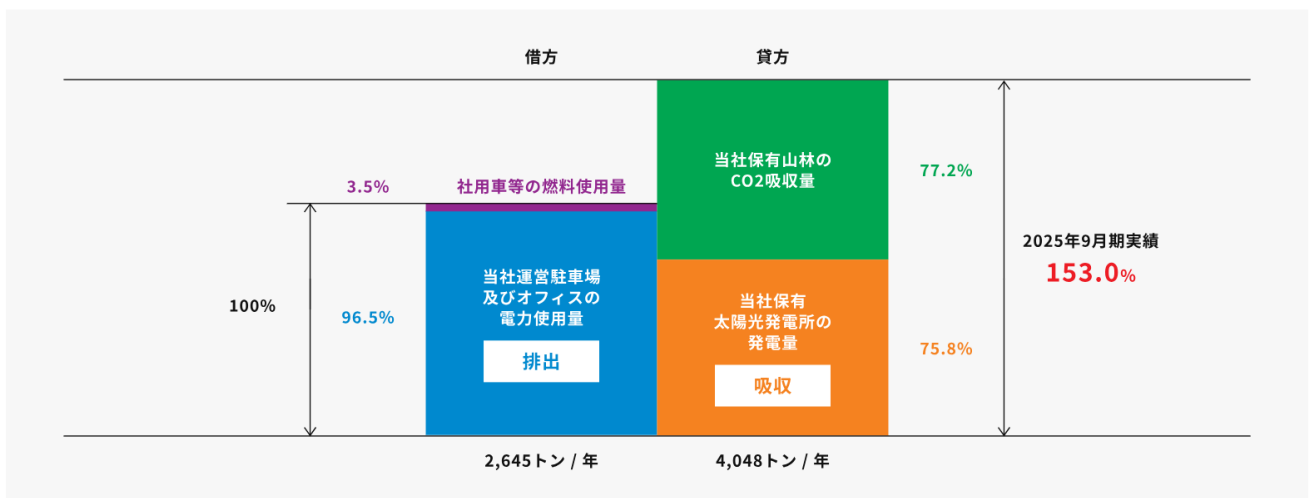
（資料）借入人ウェブサイト

■主な取り組み③ Cバランス

借入人は、事業拡大に伴い増加するCO₂排出量に対し、山林の取得、植樹等によってCO₂吸収量を増加させ、排出量以上の吸収量を確保することを目標としている。その達成状況については、每期「Cバランス」という指標を作成している。

【Cバランス考え方】

会社の成長とともに財務上のBS（バランスシート）が大きくなるように
会社が成長するためにCBS（カーボン・バランスシート）を大きくする



（資料）借入人ウェブサイト



2. 目標の選定

(1) 目標の概要

借入人は、目標指標として「CO₂吸収量」を選定した。ここでいうCO₂吸収量とは、借入人が保有する太陽光発電所の発電量に電力のCO₂排出係数を乗じて算定したCO₂削減量と、借入人が保有する山林（取得や植樹等）によって吸収されるCO₂量の合計をいう。

(2) 目標の重要性

本目標は、2020年以降の温室効果ガス排出削減等に関する国際的な枠組みを定めたパリ協定や、「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」において示された「2030年度における我が国の温室効果ガス排出量を2013年度比で46%削減することを目指し、さらに50%の高みに向けて挑戦を続ける」とする政策目標に資するものであり、借入人のサステナビリティ経営において重要な意味を有する。

(3) 経営方針と目標の関係

借入人は、前述のサステナビリティへの取り組みにおいて、企業理念である「永遠のあと百年」をサステナビリティポリシーとして掲げ、CO₂削減量と吸収量を合わせて事業活動に伴う排出量とのカーボンバランスを管理する考え方である「Cバランス」を取り入れている。こうした中、「パラカの森」プロジェクトなどを通じて、事業拡大に伴い増加するCO₂排出量に対し、山林の取得や植樹等によりCO₂吸収量を増加させることで、排出量を上回る吸収量の確保に取り組んでいる。

以上の取り組みを踏まえると、本目標は借入人のサステナビリティ経営の方針に合致するものであるといえる。

(4) 目標の有意義性

気候変動問題は、継続的な温室効果ガスの排出により、人々や生態系にとって深刻で広範囲にわたる不可逆的な影響を生じる可能性が高まるといわれている。

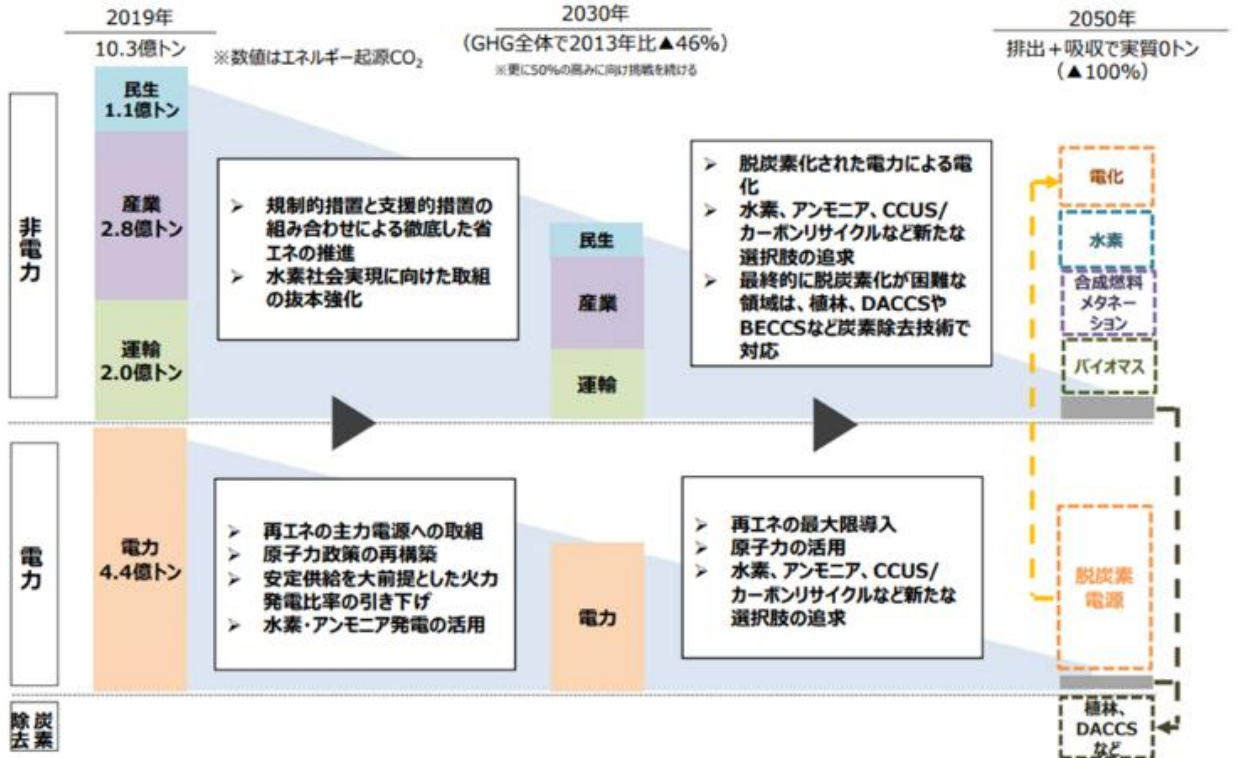
この問題に対処するため、国際的には2015年のCOP21においてパリ協定が採択され、世界共通の長期気温目標として、世界の平均気温の上昇を産業革命以前と比較して2℃より十分低く保ち、1.5℃以内に抑えることや、その目標を達成するため今世紀後半の温室効果ガスの人為的な排出と吸収を均衡することが言及された。

我が国においては、2020年10月の臨時国会において、「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことが宣言され、さらに2021年4月の地球温暖化対策推進本部において、「2030年度において、温室効果ガスを2013年度から46%削減することを目指し、さらに50%の高みに向けて挑戦を続ける」こととされている。しかしながら、これらの削減目標の実現は決して容易なものでなく、すべての社会経済活動において脱炭素を主要課題の一つとして位置づけ、持続可能で強靱な社会経済システムへの転換を進めることが不可欠であるとして、2021年10月に「地球温暖化対策計画」が閣議決定され、この計画の中で2030年度におけるガス別その他の区分ごとの目標・目安が定められている（次頁参照）。

以上のことから、借入人が設定した本目標は、地球温暖化における脱炭素に向けた国内外の政策及び企業の動向に合致するものであり、有意義なものであるといえる。



【温室効果ガスの削減目標】



(資料) 経済産業省「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略(概要資料)」より抜粋

温室効果ガス排出量・吸収量 (単位: 億t-CO ₂)		2013排出実績	2030排出量	削減率	従来目標
		14.08	7.60	▲46%	▲26%
エネルギー起源CO ₂		12.35	6.77	▲45%	▲25%
部門別	産業	4.63	2.89	▲38%	▲7%
	業務その他	2.38	1.16	▲51%	▲40%
	家庭	2.08	0.70	▲66%	▲39%
	運輸	2.24	1.46	▲35%	▲27%
	エネルギー転換	1.06	0.56	▲47%	▲27%
非エネルギー起源CO ₂ 、メタン、N ₂ O		1.34	1.15	▲14%	▲8%
HFC等4ガス(フロン類)		0.39	0.22	▲44%	▲25%
吸収源		-	▲0.48	-	(▲0.37億t-CO ₂)
二国間クレジット制度(JCM)		官民連携で2030年度までの累積で1億t-CO ₂ 程度の国際的な排出削減・吸収量を目指す。我が国として獲得したクレジットを我が国のNDC達成のために適切にカウントする。			-

(資料) 令和3年10月22日閣議決定「地球温暖化対策計画 概要」より抜粋



3. 目標値の設定

本ローンの目標値の設定については、以下の（１）から（３）の観点より適切な内容で設定されていると評価する。

（１）目標値の概要

借入人は、目標として設定した「CO₂吸収量」について、2026年9月期から2028年9月期にかけて下表のとおり目標値を設定した。

【借入人の目標値】

	実績			本目標値の対象			(参考) 2029年 9月期
	2023年 9月期	2024年 9月期	2025年 9月期	2026年 9月期	2027年 9月期	2028年 9月期	
CO ₂ 吸収量 (t)	3,086	3,498	4,048	4,114	4,182	4,251	4,320

(注) 各年度の判定期間は10月1日～9月30日。初回判定日は2026年9月30日。

（２）目標値の妥当性

借入人は、前述のとおり、CO₂削減量と吸収量を合わせて事業活動に伴う排出量とのカーボンバランスを管理する考え方である「Cバランス」を取り入れ、排出量を上回る吸収量の確保に取り組んでいる。

設定された目標値は、今後もCO₂排出量に対して100%を上回る水準を維持しながらCO₂吸収量の増加を図るものであり、先進的かつ挑戦的な内容であるといえる。

このことから、本目標は借入人のサステナビリティ経営の高度化に資するものであると評価する。

（３）目標値の適切性

目標値の適切性については、第三者機関であるひろぎんエリアデザインから評価書を取得している。



借入人は、前述の「1. 借入人とサステナビリティ」、「2. 目標の選定」、「3. 目標値の設定」に関して、自らの対応について客観的な評価が必要と判断し、ひろぎんエリアデザインによるレビューおよび目標値として設定する指標の検証を依頼した。

当該依頼を受け、ひろぎんエリアデザインは、地域特性や業種特性を踏まえて借入人が独自に設定した評価基準について確認の上、評価書を作成した。貸付人も、ひろぎんエリアデザインが評価書を作成することを承諾している。ひろぎんエリアデザインの評価書は貸付人に提供される。

ひろぎんエリアデザイン 会社概要

社名 ひろぎんエリアデザイン株式会社

代表者 代表取締役社長 越智 大輔

所在地 〒730-0031
広島県広島市中区紙屋町1丁目3-8

設立 2021年4月1日

資本金 1億5,000万円

株主 株式会社ひろぎんホールディングス

TEL 082-504-3016



留意事項

1. ひろぎんエリアデザインの評価について

本文書については、貸付人が借入人に対して実施する〈ひろぎん〉SXネクストローンについて、設定する目標の妥当性に対する評価を述べたものです。

その内容は、入手可能な公開情報、借入人から提供された情報や借入人へのインタビューなどで収集した情報に基づいて、現時点での状況の評価したものであり、当該情報の正確性、実現可能性、将来における状況への評価を保証するものではありません。

ひろぎんエリアデザインは、当文書のあらゆる使用から生じる直接的・間接的損失や派生的損害については、一切責任を負いません。

2. 貸付人との関係性、独立性

ひろぎんエリアデザインは、ひろぎんグループに属しており、貸付人およびひろぎんグループ企業との間、およびひろぎんグループのお客さま相互の間における利益相反のおそれのある取引等に関して、法令等に従い、お客さまの利益が不当に害されることのないように、適切に業務を遂行いたします。

また、本文書にかかる調査、分析、コンサルティング業務は、貸付人とは独立して行われるものであり、貸付人からの融資に関する助言を構成するものでも、資金調達を保証するものでもありません。

3. ひろぎんエリアデザインの第三者性

借入人とひろぎんエリアデザインとの間に利益相反が生じるような、資本関係、人的関係等の特別な利害関係はございません。

4. 本文書の著作権

本文書に関する一切の権利は、ひろぎんエリアデザインが保有しています。本文書の全部または一部を、自己使用の目的を超えて、複製、改変、翻訳、頒布等を行うことは禁止されています。